

地方の時代に向かい 将来のあるべき姿を見据えて

村議会議長 三富 新一



新年あけましておめでとうございます。村民の皆さまには、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年、依然として国内景気の先行きに強い不安感や不透明感が漂う中、デフレの進展、失業率の上昇など厳しい経済情勢に歯止めのかからない年でありましたが、あの日本中を熱狂と感動の渦に巻き込んだサッカーのワールドカップや小柴昌俊さん、田中耕一さんのノーベル賞のダブル受賞など明るい話題もありました。しかし、何と云っても一番大きな出来事は、まだ解決が長引きそうな北朝鮮による拉致問題ではなかつたかと思えます。特に拉致された方々の中に、本県の在住者や関係者がいたため、その関心も高く、今後1日も早く家族いっしょに生活ができるよう早期の解決が望まれます。

本村議会といたしましては、12月定例会において、国に対して「拉致被害者救出」に向けて早期解決を図るよう全会一致で決議をしたところであります。

ところで、本村では、昨年も厳しい財政事情の中で、第4次総合開発計画に沿った各種事業に取り組んできたわけでありましたが、なかでも岩室駅東側整備事業、三居の清水の散策道整備事業等の新規事業をはじめ、公共下水道事業や農村振興総合整備事業等の継続事業も住みよい生活環境整備をめざし、それぞれ順調に進んでいるところであります。

一方、国においては、平成15年度一般会計予算を「実質的には前年度水準以下に抑える」ことを目標として掲げており、そのため、地方交付税、国庫補助金負担金等の減額は避けられないところであり、また、このデフレ下での税収減も必至の情勢であるだけに、地方の財源不足は過去最大になるものと予測されるところであります。

このような厳しい状況下ではありますが、本年度も農村振興総合整備事業、岩室駅東側整備事業、公共下水道事業などの生活環境整備を中心とした継続事業に取り組み、村民の皆さまのご期待に応えていかなければならないと考えております。また、農業の面では、コメの消費の大幅な減少から深刻な需給ギャップが生じており、本年は過去最大の減反面積が配分されたところであります。国のコメ政策が中心の本村にとりましては、今後取り組みべき課題が多

自立した村づくりと 人にやさしい福祉社会を目指して

村長 佐藤 悦夫



新年明けましておめでとうございます。村民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、国の内外を問わず大変に動きの激しい一年間でありましたが、また、国内の経済が底をついた状態から、どうにか上向きになってきたとの報道で、明るい期待を寄せているところですが、まだまだ先行きが不透明で楽観は許せない状況にあります。ご承知のように、今日、少子・高齢化社会の一層の進展や、長期にわたる不況の中で、地方自治体にとりましては、かつて経験したことのない厳しい時代に直面しております。また一方では、地方分権の名のもとで、自立した自治体として自らの意思で政策を選択しながら、豊かな地域社会を構築していくことが強く求められております。

こうした地域社会の実現を目指すために、国では現在の自治体の規模や能力の向上・拡充が欠かせないということから、行政改革の大きな柱として、市町村合併の推進が緊急の課題となっていることはご案内のとおりであります。当村といたしましては、これまで歴史的背景に留意しながら、周辺町村との共存共栄の道を歩むべく、9月に西蒲南部・寺泊方面との合併協議会に加入し、合併に向けて事務事業の推進を図ってまいりましたところですが、吉田町の突然の合併協議会からの脱会により、現在当村における合併推進につきましては、白紙の状況であることはご報告させていただいたところであります。このような状況を踏まえ、合併問題につきましては今後村議会を始め、村民の皆さま方のご意見をお聞きしながら、周辺町村の状況把握にも努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

いづれにしても、このような現状認識を踏まえながら村民の英知を集め、当村の自治体としてあるべき姿や方向を真剣に考え、形作ってまいることが肝要であり、併せて先人が築いてきた街並みや農村景観を保全しながら、さらに暮らしやすい地域社会を発展継承させることが私ども現代に生きるもの責務であると思っております。

さて、昨年は平成12年度から建設を進めてまいりました岩室駅構内横断地下通路が完成し、周辺住民の方々からご利用いただいているとともに、地域の情報発信の場所としてしましても期待されているところであります。また、学校週5日制の教育制

度改革に伴う対応として、小中学校において学力向上到達度評価システムを導入し、児童生徒の学力向上への取り組みを行い、さらに公民館では、だいの倶楽部をはじめとして、伝統芸能からスポーツにいたるまで幅広く教室を設け、また、生涯学習ボランティアの皆さまから指導していただきながら、地域と子どもたちの結びつきを深めてまいりました。そして、「人にやさしい福祉社会」の実現を目指し、障害者や高齢者が健常者と同じように日常生活を送られるような社会環境作りが急務であるとの考えから誘致した、身体障害者療養施設とケアハウスも平成15年4月オープンに向け、建設も順調に進んでおります。完成後は、地域一帯が福祉ゾーンとして位置づけられるとともに、各施設がそれぞれの枠を超えた横断的福祉施設整備が完成することになります。また、その他の国・県を含めた公共工事や村単独事業につきましても、一部工事中のものを残して年度末には計画通り完成の運びとなっております。これもひとえに皆さま方の深いご理解とご協力によるものと深く感謝を申し上げます。

新年早々には、平成15年度予算編成に本格的に取り組みこととなりますが、国や地方自治体の状況は、財政面においてはますます大幅な収支不均衡が生じてきています。国における行政改革等により、国庫補助金の一方的な削減や、地方交付税の大幅な見直しが行われるなど、国家財政のしわ寄せも確実に現れております。

このような中で、平成15年度の重点施策といたしましては、高齢者の生きがい対策としての福祉の充実、健康づくりの意識を高めることを目的とする住民総参加型のスポーツイベントの開催、青少年の非行防止と交通安全対策、伝統芸能伝承の拠点整備、岩室駅東地区の整備などが挙げられますが、創意と工夫を凝らし進めてまいりたいと考えております。

岩室村は、豊かな自然とそこに息づく産業が財産であります。今後も、更にそれらを掘り起こしながら全力で行政運営に努め、住民と自治体が一体となって自立の道を築きあげていくことが、真の地方自治実現の近道と考えておりますので、どうか本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、皆さまのご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

2003年 今年は未年



平成15年は未年です。この機会に羊について少し勉強してみよう。羊は紀元前六千年頃、家畜化されたと言われ、その歴史は犬について古く、現在のイスラエルからレバノン、シリアを通過してトルコ南部を横切り、イラン、イラク国境に広がる「豊かなる三日月地帯」で飼育が始まったと言われています。肉は繊維質が少なく消化がよく、また、脂肪も牛肉、豚肉に比べてカロリーが高いので病人などの食物として適しています。しかし、日本では脂肪の独特の匂いが嫌われて、以前はあまり食べられていませんでしたが、「ジンギスカン料理」が知られるようになり一般的な食べ物として普及しました。

昨年はサッカーW杯開催など明るい話題もありましたが、長引く不況など全体的には暗い厳しいニュースが続いた年でもありました。今年は、各個人が自分を見失わないよう、目標をしっかりと見定め、その実現に向かって頑張っていきたいものです。

くありますが、国・県の動向をにらみ、助成措置なども検討のうえ、議会といたしましても完全達成に向けた対応を支援していく所存であります。

なお、行政改革の効率化を図る観点から、本村議会も昨年の12月定例会において、次の一般選挙から議員定数を現行の18人から2人削減し、16人とする条例を賛成多数で可決したところであります。

次に市町村合併の問題であります。昨年、議会といたしましては行政側と連携を密に、調査、研究を進めてまいりましたが、結果的には紆余曲折を経て、住民意向調査結果を尊重する形の中で、9月5日に「西蒲南部寺泊町村合併検討協議会」へ正式に参加をしたわけでありました。しかし、皆さまもご承知のとおり、11月12日に合併の核となる吉田町の協議会脱会により、この枠組みは現在宙に浮いた状態となっております。今後は、新たな合併方向について再検討、協議をしていかなければならない状況となっております。合併特例法の期限からして、一刻の猶予も許されないとありますが、本村の将来のあるべき姿について、皆さまといっしょに考え、取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

おわりに、村民の皆さまのご健康、ご多幸を心からご祈念申し上げます。